

令和 8 年 8 月 7 日
気象庁大気海洋部

配信資料に関するお知らせ

～「危険度分布の基となる土壌雨量指数」の
配信資料に関する仕様 No. 10401 の一部変更について～
(配信資料に関する技術情報第 474 号関連)

「危険度分布の基となる土壌雨量指数」の配信資料に関する仕様 No. 10401 について、配信資料に関する技術情報第 474 号で掲載した仕様から、情報名称の変更などに伴い、別添のとおり一部記述を変更しましたのでお知らせします。

配信資料に関する仕様 No. 10401

～危険度分布の基となる土壌雨量指数～

1. 概要

気象庁では、市町村長等が行う避難情報の発令や住民の避難開始の判断を支援するため、~~大雨警報（土砂災害）の発表や都道府県と共同で土砂災害警戒情報土砂災害の警報等~~の発表を行っています。これに加え、土砂災害発生危険度が高まっている地域を視覚的に確認できるよう、「~~大雨警報（土砂災害）の危険度分布土砂キキクル~~」を提供しています。

土壌雨量指数は、降った雨が土壌中に水分量としてどれだけ溜まっているかをタンクモデルを用いて数値化したものです。土砂災害と密接に結びついた指標として、~~大雨警報（土砂災害）や土砂災害警戒情報土砂災害に関する警報等の発表基準値~~に用いられるとともに、~~大雨警報（土砂災害）の危険度分布土砂キキクル~~の基となっています。

2. ファイル形式及びデータの概要

ファイル形式は、国際気象通報式 FM92 GRIB 二進形式格子点資料気象通報式（第 2 版）（以下 GRIB2）です。

日本国内の陸上を対象に地表面を約 1km 四方の領域（緯度 0.5 分・経度 0.75 分）に分割し、それぞれの領域で計算された土壌雨量指数等の実況値及び 6 時間先までの予測値を 10 分間隔の作成頻度で提供しています。

具体的なデータフォーマットについては別紙 1 を参照願います。

ファイル形式		GRIB2
格納要素		土壌雨量指数、第 1 タンク値、第 2 タンク値
格子系	格子系	等緯度経度
	配信領域	北緯 20 度～48 度 東経 118 度～150 度（図 1 参照）
	格子の間隔	0.0083 度（緯度）×0.0125 度（経度）
	格子の数	3360（緯度）×2560（経度）
予報時間等		解析時刻、速報版降水短時間予報による 6 時間先までの雨量予測に基づく 1 時間毎の予測（それぞれ別ファイル）
作成頻度		実況値、6 時間予測値ともに 10 分毎

ファイルサイズ	実況値：約 400KB、6 時間予測値：約 2600KB
---------	------------------------------

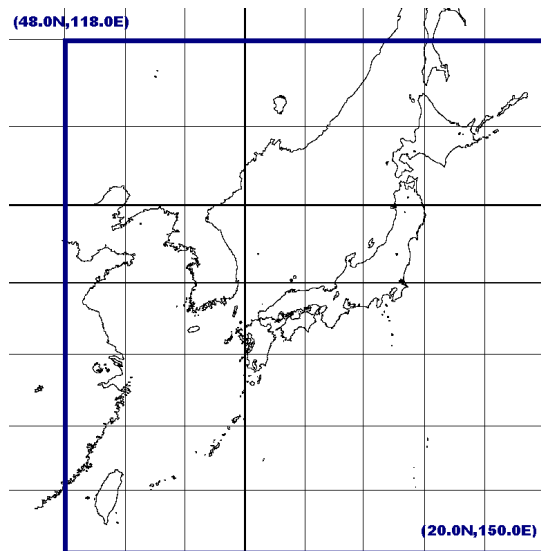


図 1 計算領域(計算対象は国内陸上格子)

3. ファイル名

- ・ 土壌雨量指数実況値 (1km メッシュ)

Z_C_RJTD_yyyyMMddhhmmss_SRF_GPV_Ggis1km_Psw_Aper10min_ANAL_grib2. bin

- ・ 土壌雨量指数 6 時間予測値 (1km メッシュ)

Z_C_RJTD_yyyyMMddhhmmss_SRF_GPV_Ggis1km_Psw_Fper10min_FH01-06_grib2. bin

※ Z と C の間にはアンダースコアが 2 個設定されている点に注意してください。その他のアンダースコアは 1 個です。yyyyMMddhhmmss はデータの年月日時分秒を UTC (協定世界時) で表します。

4. サンプルデータ

サンプルデータは (一財) 気象業務支援センターに提供しておりますので、必要な場合は同センターへお問い合わせください。

5. 利用にあたっての留意事項

別紙 2 を参照願います。

6. 障害時やメンテナンス時の対応

システム障害等により、当該気象情報の作成が不可能となった場合、データの再送は行いません。あらかじめご承知おきください。

【改訂履歴】

○令和 8 年 8 月 7 日

新たな防災気象情報の運用開始に伴う変更

土壌雨量指数の利用にあたっての留意事項

- (1) 土壌雨量指数は、土砂災害の危険性の把握を目的とした指数であり、地中に貯まった雨水量を正確に計算して求めるものではありません。このため、利用や解説にあたっては、そのような誤解を招かないよう留意する必要があります。
- (2) 土壌雨量指数は、1km 四方ごとに全国一律のパラメータを用いて算出しており、地盤の緩みに関連する地中に貯まった雨水の量を模式的に計算したものです。土砂災害の危険性は植生や地質、風化の程度等により地域ごとに異なるため、土壌雨量指数の値のみにより判断することはできません^{※1}。利用や解説にあたっては、過去に発生した土砂災害との関係に基づき作成されている~~大雨警報・注意報土砂災害の警報等の発表基準値~~^{※2}などと比較することにより、危険度を判断する必要があります。
- ※1 一般に土壌雨量指数が大きくなるほど土砂災害のポテンシャルは高いといえますが、異なる地点の土壌雨量指数を直接比較して、どちらの地点が土砂災害の危険性が高いかということを述べることはできません。
- ※2 ~~警報・注意報土砂災害の警報等の~~基準値は気象業務支援センターを通じて提供しているほか、気象庁ホームページの以下の URL に掲載しています。
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kijun/index.html>
- (3) 土壌雨量指数は、個々の傾斜地（崖）の危険度ではなく、1km 四方のメッシュの周辺を含む広い範囲の平均的な危険度を示しています。指数値が高くなることは、メッシュの周辺を含む広い地域に存在するそれぞれの傾斜地（崖）の危険度が全般的に高まっていることを意味します。
- (4) 土壌雨量指数は比較的表層の地中を対象にモデル化したものであり、深層崩壊や大規模な地滑りなど地中深い部分を要因とする災害と関連付けることはできません。
- (5) 平坦地が広がっている等、~~重大な土砂災害の恐れおそれのない地域では、大雨警報・注意報に土壌雨量指数のレベル 5 土砂災害特別警報、レベル 4 土砂災害危険警報及びレベル 3 土砂災害警報の基準の値を設定していないメッシュがあります。また、土砂災害のおそれのない地域では、これらの基準値に加えてレベル 2 土砂災害注意報の基準値を設定していないメッシュがあります。~~
- (6) 気象台では、予測精度や気象状況等を総合的に判断して~~警報・注意報警報等~~

を発表しています。このため、土壌雨量指数を基準と比較した結果と~~大雨警報・~~
~~注意報土砂災害の警報等~~の発表状況とは必ずしも一致しない場合があります。

- (7) 気象庁ホームページの土壌雨量指数の解説も参照願います。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/dojoshisu.html>

- (8) 土壌雨量指数をホームページ等に掲載する場合には、基準と比較した結果や、
基準と比較しやすい形式で表示することにより、警戒・注意を要する状況である
かどうかを分かるようにする必要があります。